

ICT の利用が進まない 日本の大学の授業についての一考察

森 夏節 (酪農学園大学)、遠藤仁美 (Duke University)

k-mori@rakuno.ac.jp

◎Key Words 大学教育、情報教育、語学教育、教育の ICT 化、デジタル教材

はじめに

初等中等教育では 2020 年代に向け、教育の情報化のロードマップの運用がスタートしている。中でも、ICT の利用による教育の質的改善は大きな柱であり、次世代の教育成果に一定の期待が持てる。

しかし、その一方で、初等中等教育の受け皿となる大学における教育の情報化は遅々として進んでいない。森の勤務校の 51 授業を対象にした調査で、デジタル教科書の利用は 0%、デジタル教材の利用は 3.6%に過ぎなかった。

利用率の低さの理由として、準備のためにかかる教員への負担 (19.6%)、効果がない (3.9%) などの回答があった。

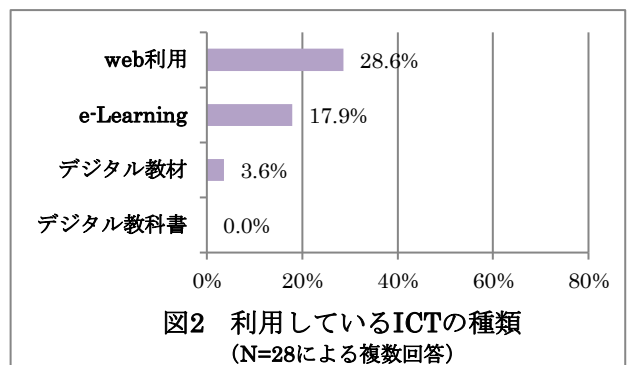
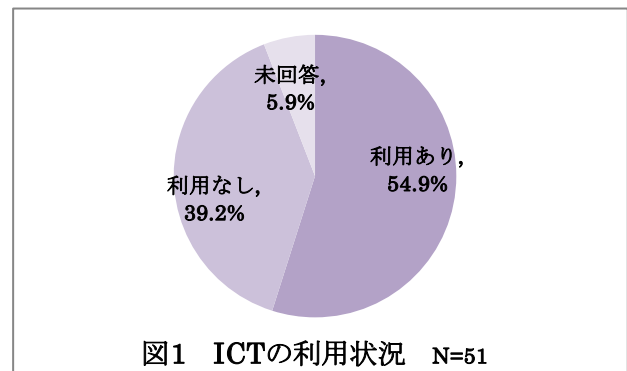
一方、遠藤が勤務するアメリカ Duke 大学は、世界の大学で初めて学生全員に iPOT を配布した事で知られるが、教育に有効利用されていない点を学生が批判した。

シビアに教育内容を評価する学生の中で、授業に有効利用されたデジタル教材の作成を通して、ICT 部門の教員サポート体制が決定的に日本と違う点を本稿で明らかにし、ICT の利用が進まない日本の大学の授業の要因を考察する。

1. 日本の大学における ICT の利用

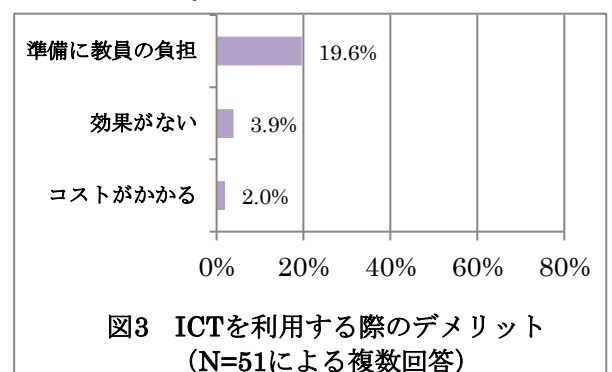
大学における ICT の利用実態を明らかにするために、酪農学園大学で実施されている授業のうち、51 講義を対象に講義内での ICT 利用について調査をした (2017 年 9 月)。ただし、プレゼンテーションソフトは ICT の利用に含めなかった。図 1、図 2 に示したように、ICT の利用は

54.9%で、利用している ICT の種類のうち、Web 利用が 28.6%と一番多かったが、デジタル教材の利用はなし、デジタル教科書はわずか 3.6%であった。



また、図 3 に示したように、ICT 利用のデメリットとして一番高かったのが、準備のための教員への負担 (19.6%) であった。

ICT の利用が教育に有効であることは理解されていても、準備への負担が ICT 利用率の低さの要因となっていることが示された。



2. Duke 大学 教育における ICT の位置づけ

Duke 大学は米国ノースカロライナ州にあり、医学部、法学大学院、経営大学院、神学部などを有するアメリカ南東部の名門校であり、学部生、院生合わせて 10,000 人の規模である。

教育へのデジタルテクノロジーの活用を目的としたプロジェクト DDI (Duke Digital Initiative) が立ち上げられ、2004 年には新入生全員に iPod を無料配布したことで知られおり、当時の最先端の音楽プレーヤーを教育に用いるという先駆的な取り組みを行った。

プロジェクト遂行のための中心的役割を果たす部署として、CIT (Center for Instructional Technology) があり、ファカルティ毎に専任のスタッフによるサポート体制が整えられていた。現在、CIT は Duke Learning Innovation と名前を変えているが³⁾、充実したスタッフ数と彼らの能力の高さは変わることがない。23 名のスタッフは、Learning Technology Analyst、Learning Experience Designer、Consultant などの肩書とともに Web サイトに紹介されている¹⁾。

3. Duke 大学 ICT を用いた教材開発と授業展開

遠藤が担当する日本語の授業を取り上げ、デジタル教材の開発、作成への Duke learning innovation の教員へのサポートについて紹介する。

1) ICT を用いた教材開発

日本語上級クラスのための教材として、日本の 8 人のプロフェッショナル (例えば鮪職人、僧侶、議員など) への VIDEO インタビューを編集し、字幕付きの教材を作成した。その教材開発の過程は次のようなものであり、Learning Innovation スタッフ (以下スタッフと略) との関わりが見てとれる。

○2015 Spring

スタッフとの打合せ。スタッフの専門は senior consultant、video specialist。

○2015 Summer

日本でビデオ撮影 (夏季休暇を利用)。

○2016 Spring

メディアパブリッシングサイトにアップロード (<https://warpwice.duke.edu>) し、その後、google sheet を用いて、スタッフとの間で細かい編集作

業の実施。

○2017 Spring / 2018 Spring

SAKAI にアップロードし教材 JPN408/407 の完成。

2) ICT を用いた授業の展開

次のような授業を展開した。

○落語プロジェクト

指定されたことわざを用いる、スクリプトを事前に提出するなどの条件の下で新作落語を作成する。グループ枚にビデオ撮影し Youtube にアップロードしクラス内で共有する。

○マンガプロジェクト

フリーソフトを用いてグループごとにマンガを作成し、SAKAI にアップロードする。

上記のプロジェクトは Youtube へのアップロード、フリーソフトの利用など ICT が用いられているが、技術指導は特に行われていない。

まとめ

Duke 大学では、サポートするスタッフ部門の充実によって様々な形で ICT が教育に有効利用されている。

また、学生たちが日ごろから慣れ親しんでいる SNS などのツールを大学教育という垣根を作らずに積極的に利用している。

日米両校の比較から、日本の大学で ICT の活用が進まない一番の要因が米国の大学では完全に解消されており、今後、日本の大学で ICT の活用を積極的に進めるためには、専門スタッフの設置が急務である。

参考文献

- 1) 上野亜子 日韓の大学講義での ICT 利用比較 酪農学園大学環境共生学類卒業論文 (2017 年度)
- 2) 米国 Duke 大学視察 森 夏節 Computer & Education VOL30 p56-58 (2011)
- 3) Duke 大学 Duke Learning Innovation (2019 年 6 月 14 日閲覧)
<https://learninginnovation.duke.edu/blog/2017/10/cit-online-duke-now-duke-learning-innovation/>
- 4) Duke 大学 Duke Learning Innovation Who we are (2019 年 6 月 14 日閲覧)
<https://learninginnovation.duke.edu/who-we-are/>